

# ぐう数・き数の ぶどう算 ④

小5/きまり表を 自分で つくって つかおう

なまえ \_\_\_\_\_

ひづけ \_\_\_\_\_

- ・ この 紙の きまり表は、右はしの □が 空らんで、まだ 完成して いない。①で 自分で 表を 完成させて、②で つかおう。
- ・ ぐう数(2で わりきれる 数)は ○(ふちだけ)、き数(2で わると 1 あまる 数)は ●(ぬりつぶす)。
- ・ 表は、左の 2つの しるしに 当てはまる 数を たした 答えが、ぐう数なら ○、き数なら ● に なる、という きまり。その しるしを 一番 右の □に 書く。
- ・ ①は、きまり表の 各行(1~4行目)の 右に、数の れいが 2つずつ ならんで いる。同じ 行の 2つの れいは、答えが 同じ しるし(ぐう数か き数か)に なる。れいを 計算して、答えが ぐう数なら ○、き数なら ● と しらべ、同じ 行の きまり表の 一番 右の □に ○か ● を 書く。れいの □には 答えの 数を 書く。(れいを見よう)
- ・ ②は、①で 完成させた 表を 見ながら、4だんの ぶどうを ○と ●だけで うめる。となりあう 2つに 合う 行を 表から さがし、右の しるしを 2つの 間の 下に 書く。
- ・ ふとい わくの □が 書く ところ。①で 表の □の しるしが 決められない ときは、その 行の 2つの しるしに 合う 数を 自分で えらび、たして 答えが ぐう数か き数かを しらべよう。

れい 5+8 を 調べる

$$\begin{array}{c} 5 \\ \bullet \end{array} + \begin{array}{c} 8 \\ \circ \end{array} = \begin{array}{c} 13 \\ \bullet \end{array}$$

5は き数だから ●、8は ぐう数だから ○。

5+8=13。13は き数だから ●。

だから 表の ●+○ の 行の □には ● が 入る。

## ① 数の れいを 計算して、きまり表を 完成させよう

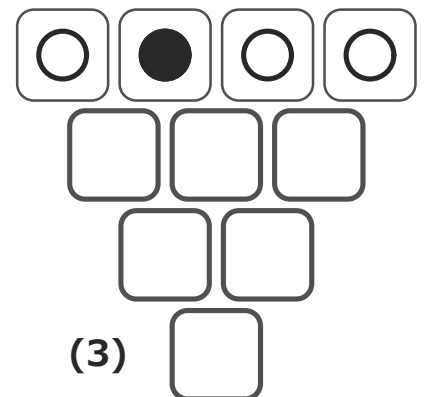
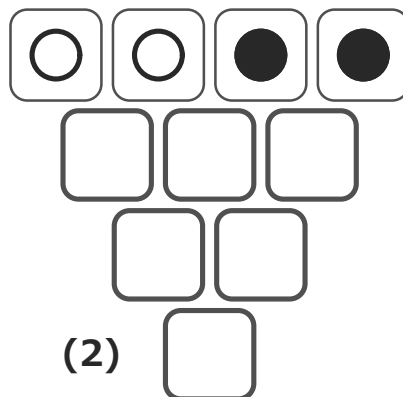
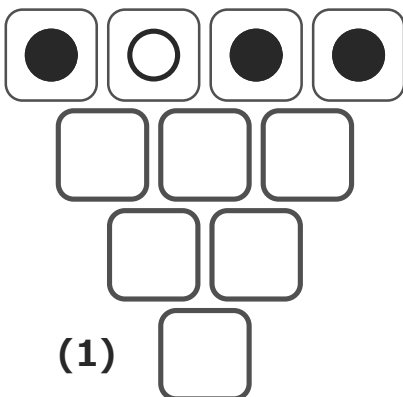
しらべる れい(計算して 答えを □に 書き、答えが ぐう数か き数かを 見る)

$$\begin{array}{l} 1 \quad \circ + \circ = \square \\ 2 \quad \bullet + \bullet = \square \\ 3 \quad \circ + \bullet = \square \\ 4 \quad \bullet + \circ = \square \end{array}$$

$$\begin{array}{l} 6 + 8 = \square \\ 7 + 5 = \square \\ 4 + 9 = \square \\ 3 + 8 = \square \end{array}$$

$$\begin{array}{l} 12 + 4 = \square \\ 9 + 13 = \square \\ 10 + 7 = \square \\ 15 + 6 = \square \end{array}$$

## ② ①で 完成させた 表を 見ながら、4だんを ○と ●で うめよう



# ぐう数・き数の ぶどう算 ④【こたえ】

小5／きまり表を 自分で つくって つかおう

なまえ \_\_\_\_\_

ひづけ \_\_\_\_\_

## こたえ(赤い ところが こたえ)

- ・ 表の こたえは、1行目  $\bigcirc + \bigcirc = \bigcirc$ 、2行目  $\bullet + \bullet = \bigcirc$ 、3行目  $\bigcirc + \bullet = \bullet$ 、4行目  $\bullet + \bigcirc = \bullet$ 。数の れいは 全部 そのとおりに なっている。
- ・ ②の (1)  $\bullet \bigcirc \bullet \bullet \rightarrow \bullet \bullet \bigcirc \rightarrow \bigcirc \bullet \rightarrow \bullet$
- ・ ②の (2)  $\bigcirc \bigcirc \bullet \bullet \rightarrow \bigcirc \bullet \bigcirc \rightarrow \bullet \bullet \rightarrow \bigcirc$
- ・ ②の (3)  $\bigcirc \bullet \bigcirc \bigcirc \rightarrow \bullet \bullet \bigcirc \rightarrow \bigcirc \bullet \rightarrow \bullet$

## ① 数の れいを 計算して、きまり表を 完成させよう

しらべる れい(計算して 答えを □に 書き、答えが ぐう数か き数かを 見る)

$$1 \quad \bigcirc + \bigcirc = \boxed{\bigcirc}$$

$$6 + 8 = \boxed{14}$$

$$12 + 4 = \boxed{16}$$

$$2 \quad \bullet + \bullet = \boxed{\bigcirc}$$

$$7 + 5 = \boxed{12}$$

$$9 + 13 = \boxed{22}$$

$$3 \quad \bigcirc + \bullet = \boxed{\bullet}$$

$$4 + 9 = \boxed{13}$$

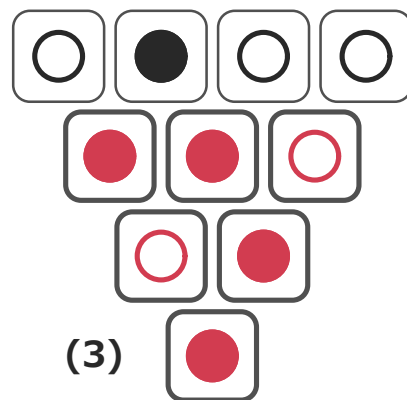
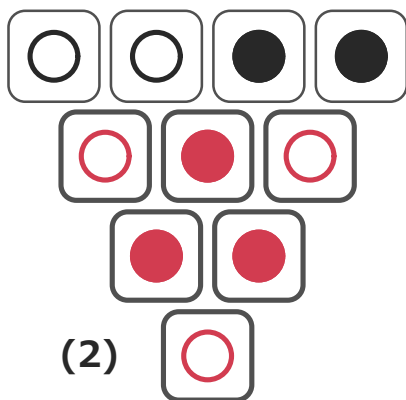
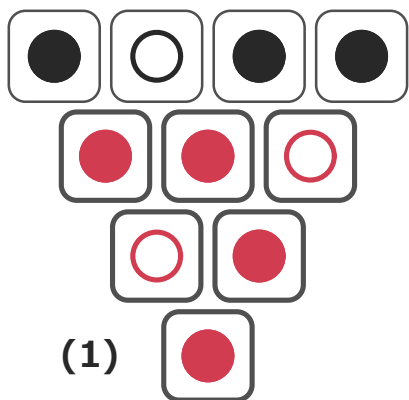
$$10 + 7 = \boxed{17}$$

$$4 \quad \bullet + \bigcirc = \boxed{\bullet}$$

$$3 + 8 = \boxed{11}$$

$$15 + 6 = \boxed{21}$$

## ② ①で 完成させた 表を 見ながら、4だんを ○と ●で うめよう



## おうちの方へ

①は『数を えらんで 試して たしかめる』紙です。表を 先に 教えず、数の れいから 自分で 作らせてください。れいが 合っていれば 表は 全部 そろいます。

②は ①で 作った 自分の 表を つかいます。①の 表が まちがっていると ②も ずれるので、まず 表を 上の こたえと くらべてください。

②の 一番 下を 当てるだけなら 近道が あります(4だんの 一番 上の ●の 個数が 奇数なら ●、偶数なら ○)。気づいたら ほめて よいですが、全部の □に 書いて 合っていることを 正解に します。

ぐう数・き数は 学校では 偶数・奇数と 書きます。